

## 平成25年度 附属学校園存続のための特色化にかかわる事業実施報告書

事業の名称	釧路からの挑戦 (地域の教育課題の解決を目指した小中一貫教育の創造)
事業実施代表者名	村山 昌央
実施附属学校名	附属釧路小学校
事業内容 (実施内容について、 1,000字程度で記述)	<p>今、北海道では学力向上、とりわけ平成26年度の学力学習状況調査までに「全国平均以上」に向け、オール北海道で取り組んでいる。一方、「北海道教育大学附属学校園の今後の在り方に関する有識者会議報告」では、道東地域の「学力の向上」に向けた附属学校としての取組が求められている。</p> <p>これらのことから、本校では小中一貫教育を基盤とした道東地域の課題解決に向けた研究を行い、地域のモデル校として情報発信を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・義務教育9年間を4-3-2のまとまりによる教育課程編成の研究</li> <li>・小学校高学年における教科担任制の実施(算数)</li> <li>・小中教員の相互授業乗り入れやTTによる授業の実施(算数・数学)</li> <li>・新規に導入されたi-padを活用した試行授業の実施</li> </ul>
成果と課題 (活動の成果と課題について、500字程度で記述)	<p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校の文化や考え方の違いの調整をしながら各教科毎での授業交流ができた。</li> <li>・一時的ではあるが小中教員が相互に授業を行ったり、TTによる授業を実施したりすることができた。</li> <li>・i-pad収納ケースを揃えたことにより、i-padを活用した授業を迅速かつ機動的に行うことができた。</li> </ul> <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善を基盤とした児童の学力向上の検証が必要である。</li> <li>・相互乗り入れ授業の定例化を目指す必要がある。</li> </ul>
今後の発展性 (残された課題の解決方策及び取組の方向性について、500字程度で記述)	<p>今年度設置された大学・小中学校共同研究委員会を窓口、小中一貫教育を目指した道東地域の課題解決に向けた研究を推進し、地域のモデル校としての情報発信を更に進める必要がある。</p> <p>また、附属小中学校としても、9年間における学力保証を担保とした連携の在り方をはじめとして、小学校と中学校のスムーズな接続が実現され、連絡進学の本質の向上も期待できる。</p>
事業の公表状況 (事業をHPで公開した場合、又は新聞等に掲載された場合、当該媒体名、掲載日等を記入)	

(注) 当該事業に係る写真等の参考となる資料がある場合は、この事業報告書に添付すること。